

## 常染色体優性（顕性）遺伝

### ノーマル（クリア）

野生型のみ検出される（変異が検出されない）場合です。  
その遺伝子変異が原因となる疾患の発症リスクは低く、またその遺伝子変異による疾患は後代に遺伝しません。

### ヘテロ接合（アフェクテッド）

野生型と変異型の両方が検出される場合です。  
ただし、常染色体優性遺伝のため、その遺伝子変異が原因となる疾患の発症リスクは高いです。  
繁殖においてヘテロ接合（アフェクテッド）は繁殖から外すか、ノーマル（クリア）としか交配しません。  
ただし、ノーマル（クリア）の個体と掛け合わせた場合でも、対象となる疾患の発症リスクが高い子が生まれる可能性があることに留意しなければなりません。ヘテロ接合（アフェクテッド）同士の交配は一般に禁忌とされています。

### ホモ接合（アフェクテッド）

変異型のみ検出される場合です。  
その遺伝子変異が原因となる疾患の発症リスクが高いです。  
ノーマル（クリア）の個体と掛け合わせた場合でも、全ての子が対象となる疾患の発症リスクが高くなるため、ホモ接合（アフェクテッド）は繁殖から外します。

遺伝子は父親と母親からそれぞれ受け継いだものがペアになっています。  
右図のように片側に変異を持つ場合はヘテロ接合となり、優性遺伝の場合は片側だけでもアフェクテッドとなります。

